

令和7年12月19日

三里地区

地区別事前復興まちづくり計画
ワークショップ資料

目 次

ワークショップの進め方	P2
第1回ワークショップの振り返り（ワーク1・ワーク3）	P4
意見交換：復興の目指すべき姿＝ビジョンを考えよう	P9
第1回ワークショップの振り返り（ワーク2）	P11
意見交換：修正復興パターン（案）の提示	P16
ワーク4：速やかに復興するために必要なことってな～に？	P21
次回開催のご案内	P22

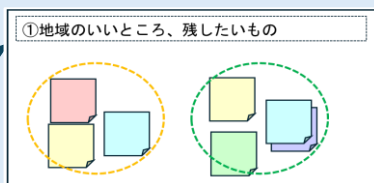
ワークショップの進め方（全体）

第1回ワークショップ (計100分（発表時間込み）)

- ・事前復興まちづくり計画の目的 (10分)
- ・地区の現状と課題を説明 (10分)

ワーク1 地区のいいところ・残したいもの
困っていること (25分)

Point
被災後の
「ビジョン=目指すべき姿」
へつなげる



- ・復興パターンの概要説明 (10分)

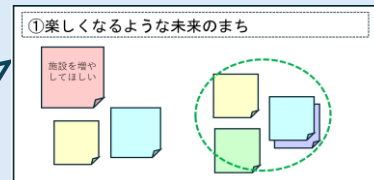
ワーク2 復興パターンについて感想 (25分)

Point
復興パターンに対する意見を
述べてもらい
第2回目に修正案を提示

復興パターン	1案 移転対応案	2案 現地再建築
ポイント	・被災地区の最大な被害が想定される地区の 集合移転によるコミュニティの維持 (移転先は旧市街地と三里中学校近 辺を想定)	・住み慣れた場所を復興させることでコ ミュニティの維持 ・最大な被害が想定される地区では法的策 上げにより、被災安全性の高い住宅地を復 興
活用事業	・防災集団移転促進事業 ・移転先地域の復興事業 (災害復興事業)	・土地活用促進事業
メリット	・安全な場所への移転による、生命や財産を 守ることができる ・被災した財産が受け入れられる	・被災地区の生活基盤、コミュニティの再構築 ・被災地区の復興事業の安全性向上 ・土地活用促進による被災地の復興
デメリット	・住居形成の長期化 ・復興の長期化 ・移転先地域の土地の確保 ・コミュニティの再構築、復興事業の長期化	・住居形成の長期化 ・復興の長期化 ・被災地区の復興事業の安全性向上 ・土地活用促進による被災地の復興
期間比較	○	△
費用比較	○	△

ワーク3 楽しくなるような未来の
まちを想像する (25分)

Point
ゾーニングに対する意見を
引き出す



- ・まとめ (5分)

目標

自分の地区の特徴を知ってもらい、
復興パターンの意見をもらう

第2回ワークショップ (計100分)

- ・第1回ワークショップ振り返り (ワーク1、ワーク3) (15分)

- ・目指すべき姿(案)の提示 (25分発表込み) **意見交換**

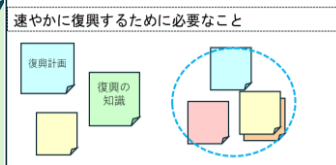
- ・第1回ワークショップ振り返り (ワーク2) **意見交換**

- ・修正復興パターン案の提示 (説明10分 ワーク20分 発表5分)

ワーク4 速やかに復興するために必要なこと (20分)

Point

- ・被災後の自立再建を
意識してもらう
- ・復興でのすべきことを知って
もらい復興中の活力につなげる
- ・まとめ (5分)



目標

復興ビジョンを取りまとめ、修正復興
パターンの意見をもらう

第3回ワークショップ (計100分)

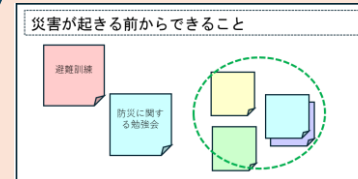
- ・第2回ワークショップ振り返り (20分)

- ・最終案の提示 (修正復興パターン・ゾーニング) **意見交換** (30分)

ワーク5 災害が起きる前からできること (30分)

Point

防災意識の向上
地域での防災活動の啓発



- ・まとめ(20分)

目標

復興パターン・ゾーニング図の取りまとめ

地区別事前復興まちづくり計画とは？

被災後、早急に復興が進めれるように
復興パターン・土地利用の選択肢をあらかじめ用意しておく

次世代へバトンタッチ!!

被災後

被災状況に応じて復興パターン・土地利用を選択



ワークショップの進め方（第2回）

①第1回目の振り返り（ワーク1、3）（18:30～18:45）



②意見交換：地区の目指すべき姿＝ビジョンについて（18:45～19:10）

③第1回目の振り返り（ワーク2）

意見交換：修正復興パターンについて（19:10～19:45）



④速やかに復興するために必要なこと（19:45～20:05）



⑤まとめ（20:05～20:10）

第1回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

ワーク1

三里の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていることについて、意見を共有しましょう。

ワーク2

復興パターン2案について意見を共有しましょう。

ワーク3

楽しくなるような未来のまちを想像してみよう。



第1回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

ワーク1 三里の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていることについて、意見を共有しましょう。

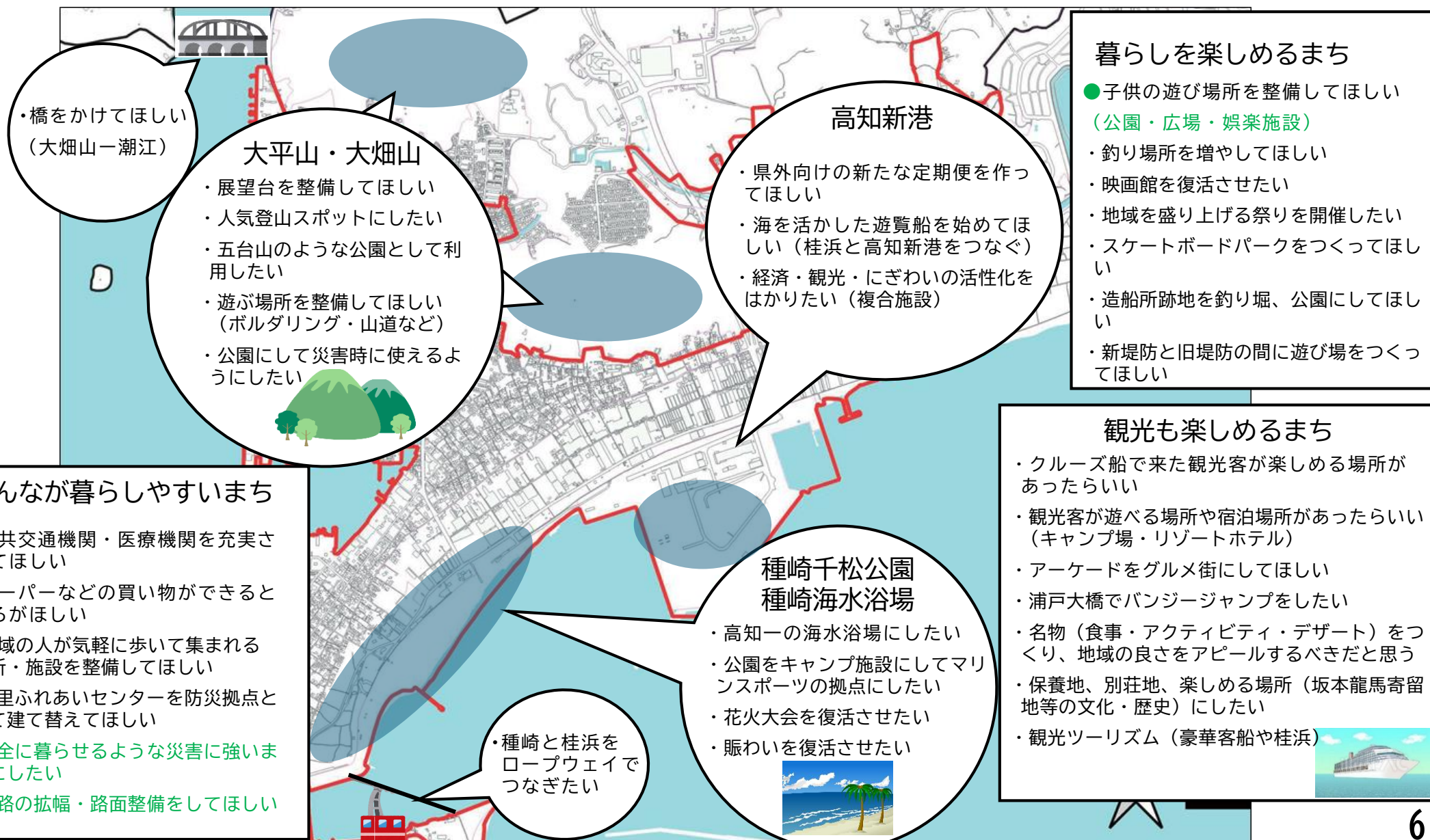
—— 中学生意見

項目 \ 地区	良いところ 残したいもの	困っていること
安全安心な まちの再生	避難訓練が多い（地域の学校や保育園との連携）	●古い塀、高いブロック塀の倒壊が心配 狭い避難路・避難場所が土砂災害リスクがあり、避難できるか心配 山にある避難路・避難場所が維持管理されていない 海が近いため津波が心配
住まいと 暮らしの再建	●スーパーがある 病院がある 医療センターがある（高台にある・アクセスが良い） 無料で乗れる渡船がある 海水浴や釣りが楽しめる 過ごしやすい気候が良い 景色が良い（大平山・公園） 自然が多い 住みやすい	スーパーなどの店が少ない（散髪屋・病院等） バスの便が少ない ●道路の路面状況が悪く、狭い道が多い
なりわいの 再生	造船所がある 園芸が盛んである（グロリオサ・パイナップル等） 特産物のグロリオサを残したい	働く場所が少ない
歴史・文化の 保全と継承	各地区にお宮・神社がある （仁井田神社・貴船神社・天明磐國神社） 坂本龍馬ゆかりの歴史文化財がある お遍路文化がある 仁井田神社（お祭り）を残したい	—
地域共生社会 の実現	●地域のつながりが強い	空き家・空き地が多く、樹木等の管理ができていない

第1回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

ワーク3 楽しくなるような未来のまちを想像してみよう。

中学生意見



ワーク3 楽しくなるような未来のまちを想像してみよう。

回答・事例紹介① 観光復興に関する賑わいの事例

東北の観光復興に関する取組の強化（ブルーツーリズム推進支援事業）〔観光庁〕

東日本大震災からの観光復興に向けて、インバウンドを中心とした取組を推進。ブルーツーリズム推進支援事業〔観光庁〕を活用。



事例①: 気仙沼地域ブルーツーリズム事業
(気仙沼市観光協会)

- 旅行会社等と連携し、海産物をテーマにした料理体験やお土産づくり、牡蠣の養殖いかだ見学、漁師体験など、**海の体験と郷土文化を知る体験を組み合わせたコンテンツ**を造成



SUP体験



シーカヤック体験



地元漁師が漁船で案内する大島一周ツアー

事例②: 「食×環境×観光」による
海辺のまちの魅力向上事業(南三陸町)

- ブルーフラッグ認証の取得やラムサール条約湿地「志津川湾」の環境を活かし、「学べる海水浴場」として魅力向上を図る。海岸の清掃や牡蠣等の水産物の育つ環境を学ぶビーチクリーン環境講座や、海の環境への理解を深め自主的な活動を促進する出前型人材育成講座を開催。



サンオーレそではま海水浴場



ビーチクリーン環境講座

ワーク3 楽しくなるような未来のまちを想像してみよう。

回答・事例紹介② 祭り継承事例

能登の祭りの継承取組事例

能登地震以前は226件の祭りがあったものの、地震の後は担い手不足等で令和6年には68件に留まっていたが、石川県が「祭りお助け隊」の設置や助成金での支援を行い、令和7年には119件にまで増え、再開の動きが拡大している。※テレビ金沢NEWSより



【地域の祭り再開支援事業について】

●いしかわ県民文化振興基金 地域の祭り再開支援事業について

・助成対象団体
自治会、町内会または区等の地縁団体
複数の地縁団体の区域を対象とした、祭りの保存及び継承を目的とする保存会または実行委員会等の団体

・助成対象事業
七尾市以北の6市町を中心とする被災地において、地震により用具の破損や担い手不足などの影響が及んでいる祭りを開催するための事業

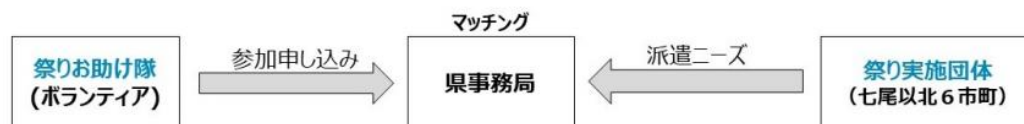
・助成対象経費
(準備経費)
祭りの用具や保存庫等の修理・新調（経年劣化によるものを除く）、後継者の育成のための研修会や気運醸成に向けたシンポジウム・検討会、SNSでの情報発信やポスター等の広報費など
(開催経費)

祭りの開催に係る各種消耗品購入、外部協力者謝礼（警備・清掃など）、資機材借上に要する経費など

・助成金額
3年で最大150万円



※石川県HPより



意見交換：復興の目指すべき姿＝ビジョンを考えよう

安心安全なまち再生

- ・災害に備えた事前準備

キーワード

避難訓練の維持
避難路・避難場所の維持管理
防災拠点の確保



住まいと暮らしの再建

- ・自然を活かした住みやすいまちの形成



キーワード

自然→景色・海水浴場・渡船
住みやすいまち→スーパー、病院等の施設の充実
狭隘道路・路面状況の再整備
公共交通機関の充実

なりわいの再生

- ・園芸農業・造船業・観光業を活かしたまちの再生

キーワード

園芸農業→グロリオサ
造船業→造船業に適した立地・造船所
観光業→千松公園・海水浴場・高知新港を中心としたにぎわいの活性・観光客向けの施設・場所の整備



歴史・文化の保全と継承

- ・歴史文化財の保全
- ・地域をつなぐ祭りの継承
- ・遊び場の充実



キーワード

歴史文化財→仁井田神社・貴船神社・天明磐國神社・坂本龍馬ゆかりの歴史文化財・お遍路文化
祭りの継承→仁井田祭り・花火大会
遊び場→スポーツ施設・マリンスポーツ・大平山・大畑山・公園

地域共生社会の実現

- ・地域のつながりの維持・強化

キーワード

地域のつながりが良い
地域の人が集える施設



意見交換：復興の目指すべき姿＝ビジョンを考えよう

○ワークショップをもとに考えたビジョン案

案1 (ワーク1～3の意見を踏まえた案) 「資源」を主軸とする案

『海・なりわい・歴史の魅力に溢れた 住みよい安心と絆のまち』

災害に強い良好な生活環境を備えるとともに、海とともに形成された活力ある地域産業や歴史・文化等の資源を生かし、工業団地や港・園芸農業の再生、賑わいある臨海空間の形成など災害に強く活力と魅力あるまちづくりにより、人々が再び集まり、交流し合う温かいコミュニティの形成を目指します。

案2 (ワーク1～3の意見を踏まえた案) 「防災」を主軸とする案

『人・海・歴史が繋がる 災害に強く、住み続けたいまち三里』

人と海、歴史を大切にする三里の魅力を活かし、誰もが安心して住み続けられるよう、防災力を高め、暮らしやすさと地域のつながりを次の世代へ受け継ぐまちを目指します。

案3 (ワーク1～3の意見を踏まえた案) 「コミュニティ」を主軸とする案

『自然と産業が調和し、人と地域が支え合う、安心を育むまち 三里』

三里地区に根付く農業や造船業、そして山と海の恵みに包まれた地域特性を生かしながら、防災力の強化と地域コミュニティのつながりを深めることで、誰もが安心して暮らし続けられる、調和と支え合いのあるまちを目指します。

第1回ワークショップの振り返り

ワーク2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

【第1案】嵩上げ案

●被害が大きいと想定される種崎地区を嵩上げすることで、現地で住み続けることができる案



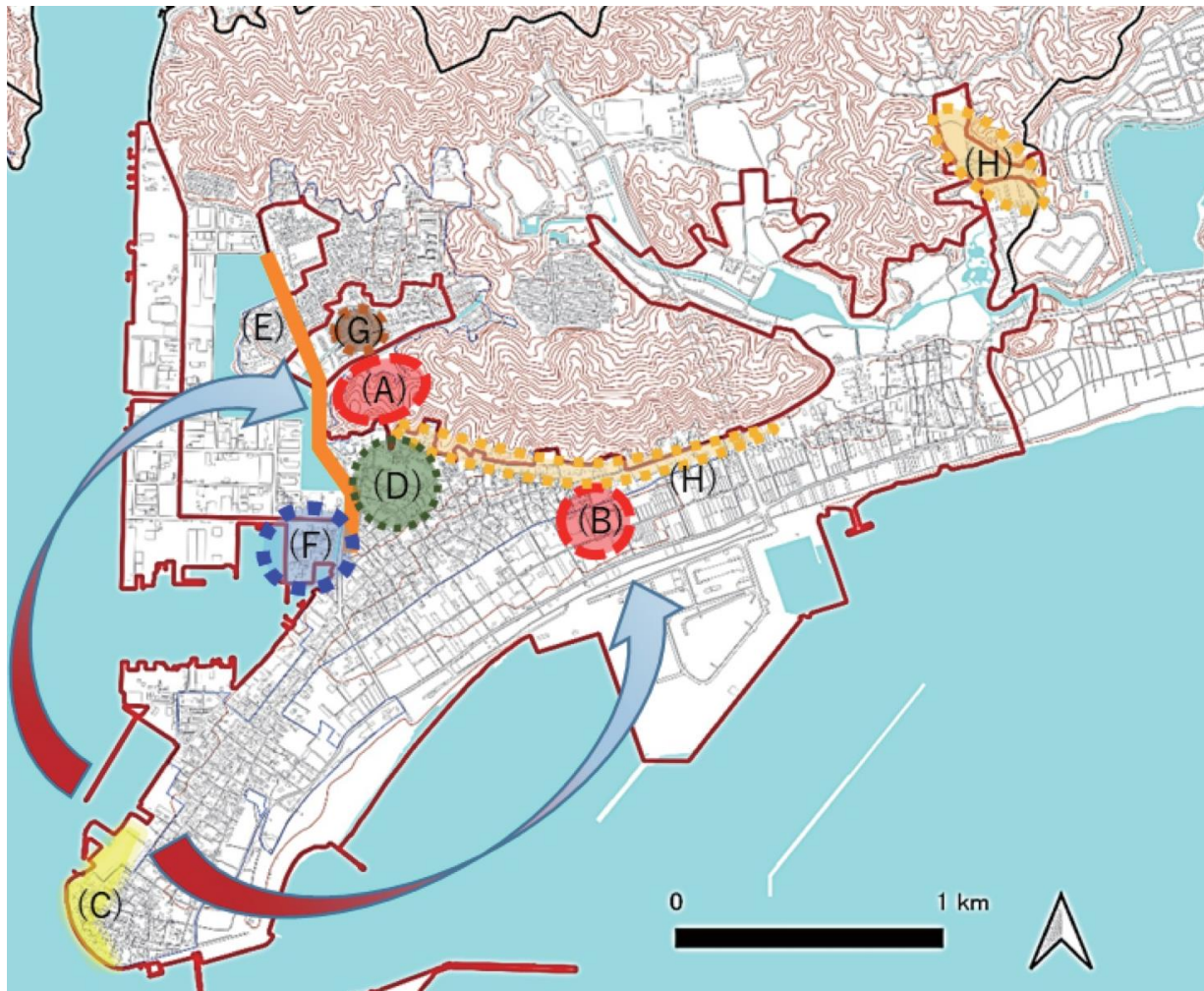
- (A) 嵩上げ(区画整理事業)
- (B) 区画整理事業
- (C) 二線堤(県道35号)
- (D) 住工複合ゾーン
- (E) 災害公営住宅の整備
- (F) 土砂災害対策

第1回ワークショップの振り返り

ワーク2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

【第2案】移転対応案

●被害が大きいと想定される種崎地区を安全な場所へ移転することで、生命や財産の保護を優先に考えた案



- (A) 高台移転
仁井田公園と市有地の山林
を活用した新市街地整備
- (B) 内陸移転
ふれあい広場と未利用の私有
地を活用した新市街地整備
- (C) 移転元地(建築制限)
- (D) 区画整理事業
- (E) 二線堤(県道35号)
- (F) 住工複合ゾーン
- (G) 災害公営住宅の整備
- (H) 土砂災害対策

第1回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

ワーク2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

中学生意見

【第一案】	住み慣れた地域で再び住みたい 種崎地区の一部ではなく、浸水予想エリアの広い範囲もしくは全体を嵩上げしてほしい 狭い道路や古い建物が多いため、市主導で種崎地区全体を嵩上げしてほしい 被災後、海に隣接したところに住むのは怖いと思う 種崎を嵩上げすることで街に流れてくる津波を抑えられる コミュニティの維持ができる 種崎の人たちにもそこでの思い出があったりするため、移転しなくてもいいような案があるならそっちの方がいいと思う
【第二案】	同じ三里でも地区が変わると文化も違うため、種崎内で嵩上げして移転したい 船の係留地を埋立て、移転先や交流施設・広場にできないか 千松公園を埋め立て、嵩上げして住宅と避難先としたらどうか 移転候補地として大平山・大畑山を活用したらどうか 生活の利便性が悪くなるのではないかと（スーパー・公共交通） コミュニティの分断と移転先での人とのつながりが不安 移転案は安全面としてはいいが、種崎の人の家が変ってしまう点は寂しい 少しでも安全なところに移転したほうが安全 移転候補地はあまり使われているところを見たことないため、有効活用したほうがいい
【共通】	南北に走る中道を拡張してほしい 避難センターに逃げられない場合に避難できる高い家があるマップがほしい 高齢者に配慮した災害公営住宅にしてほしい 二線堤で道路が高くなることによって近隣の分断や生活の利便性が悪くなるのではないかと 災害に強いまちにしたい コンパクトなまちを目指したい

第1回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

意見に対する回答

	意見まとめ	回答
移転	①船の係留地や千松公園への移転について検討してほしい。	港湾内の埋立てに関しては「公有水面埋立法」に基づき、環境保全及び災害防止に十分配慮しなければならず、また、船の係留地の確保が必要となることから、浦戸湾の埋め立ては現実的に困難な状況です。 千松公園内の移転先確保については、国有地の都市公園であるため、住宅の整備は困難です。ただし発災後の被災状況に応じ、再検討する可能性がございます。
区画整理	②種崎地区の区画整理範囲を拡大できないか検討してほしい。	現地調査を行い、原案の他に、3案作成しました。
道路のみ	③復興に合わせて、道路整備・拡幅をしてほしい。	P. 15参照
住宅	④復興に合わせて、公営住宅の建設や現市営住宅を住みやすく改良してほしい。	災害公営住宅については、災害発生後、被災状況や被災者のニーズ調査等を踏まえながら整備計画を検討していきます。また、災害公営住宅の仕様については、高齢者や障がい者など入居が想定される方の状況に応じ、バリアフリー化やエレベーターの設置など必要な機能や設備を検討します。既存の市営住宅については、市営住宅再編計画に基づき、団地の集約化や建替え、安全性や居住性の向上を図るための改善工事などを実施していきます。

修正パターン【移転対応案】

種崎地区内の移転検討

検討①
港湾施設の埋め立て
による移転先の確保



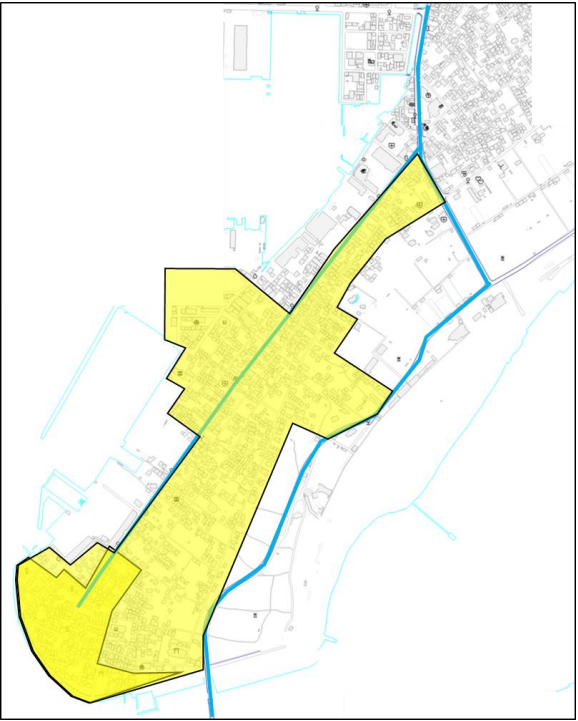
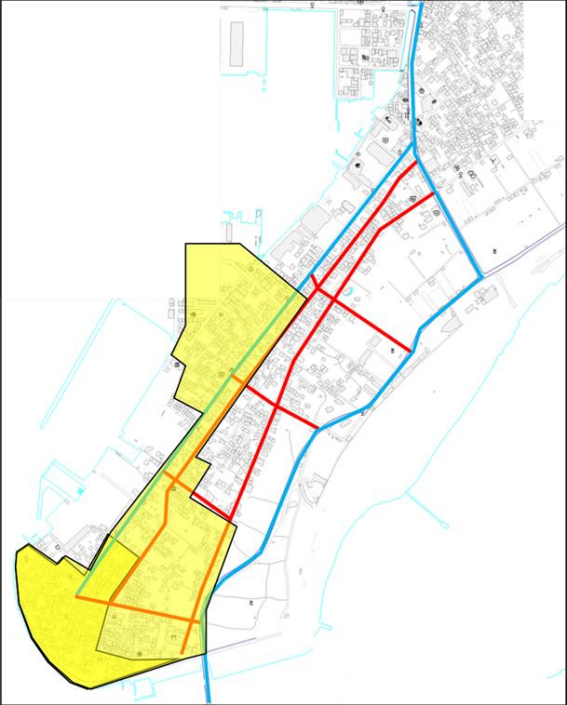
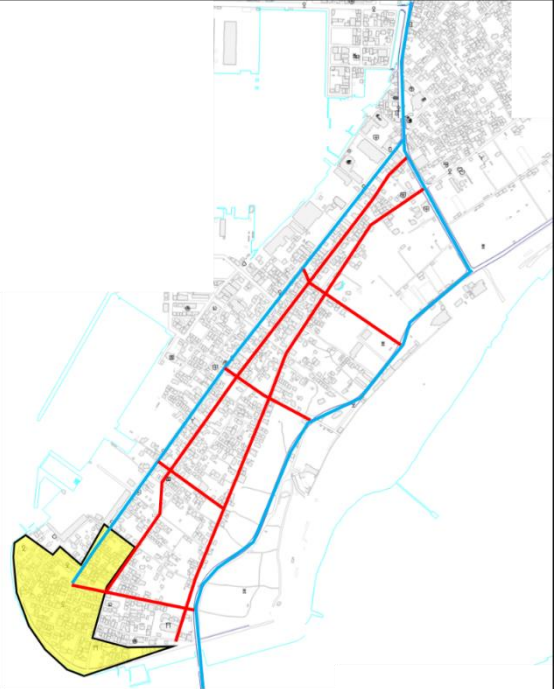
検討②
種崎千松公園を
利用した移転先の確保

移
転

船の係留地や千松公園への移転について検討してほしい

港湾内の埋立てに関しては「公有水面埋立法」に基づき、環境保全及び災害防止に十分配慮しなければならず、また、船の係留地の確保が必要となることから、浦戸湾の埋め立ては現実的に困難な状況です。
千松公園内の移転先確保については、国有地の都市公園であるため、住宅の整備は困難です。ただし発災後の被災状況に応じ、再検討する可能性がございます。

修正パターン【嵩上げ案】

1-B案 一体嵩上げ型	1-C案 浸水エリア一体嵩上げ型	1-D案 地区道路ネットワーク形成型
種崎地区全体を一体嵩上げ案・区画整理 ・種崎地区の面的基盤整備による地区全体の津波安全性・居住環境・利便性等の向上	種崎地区の浸水エリア全体を一体嵩上げ・区画整理 地区道路のネットワーク整備 ・浸水エリア全体の津波安全性・居住環境・利便性等の向上 ・主要な道路ネットワーク整備による周辺市街地の居住環境・利便性等の向上	甚大な津波被害想定地区の嵩上げ・区画整理 地区道路のネットワーク整備 ・甚大な津波被害想定地区の津波安全性・居住環境の向上 ・主要な道路ネットワーク整備による周辺市街地の居住環境・利便性等の向上
  嵩上げ（区画整理事業）  県道	  嵩上げ（区画整理事業）  市道 道路整備（4m）  県道	  嵩上げ（区画整理事業）  市道 道路整備（4m）  県道

修正パターン【嵩上げ案】

【各案の相対比較 ◎優れている ○やや優れている △やや課題がある ▲特に課題がある】

【第1案】嵩上げ案における事業の比較案

復興パターン	A	B	C	D
	甚大被害対応嵩上げ型	一体嵩上げ型	浸水エリア一体嵩上げ型	地区道路ネットワーク形成型
ポイント	・甚大な津波被害想定地区の嵩上げ・区画整理	・種崎地区全体を一体嵩上げ・区画整理	・種崎の浸水エリア全体を一体嵩上げ・区画整理 ・地区道路のネットワーク整備	・甚大な津波被害想定地区の嵩上げ・区画整理 ・地区道路のネットワーク整備
整備効果	▲ ・甚大な津波被害想定地区のみの居住環境・利便性等の向上	◎ ・種崎地区全体の道路ネットワーク整備による津波安全性の向上 ・面的基盤整備による地区全体の居住環境・利便性等の向上	○ ・主要な道路ネットワーク整備による周辺市街地の津波安全性の向上、居住環境・利便性等の向上 ・区画道路整備による周辺市街地の居住環境・利便性等の向上	○ ・主要な道路ネットワーク整備による周辺市街地の・津波安全性の向上、居住環境・利便性等の向上
事業期間 (基準8年以内)	◎ 事業面積 約8ha 事業区域は標準的で基準年内となる	▲ 事業面積 約43ha 事業面積が大きく基準年を大幅に超える	△ 事業面積 約26ha 事業面積がやや大きく、道路整備があるため基準年を超える	○ 事業面積 約8ha 事業区域は標準的で道路整備があるが基準年内となる
まとめ	区画整理事業の範囲を拡大することで、 地域全体の住環境や防災性の向上、土地の有効活用や資産価値の増加といったメリット が期待できる一方で、 事業期間やコストの増加、住民の移転負担や利害調整の難しさ、さらに工事による生活の一時的な混乱などのデメリット も生じるため、これらを総合的に考慮して慎重に計画を進める必要があります。			

※区画整理事業での個人負担については土地の減歩が発生します。

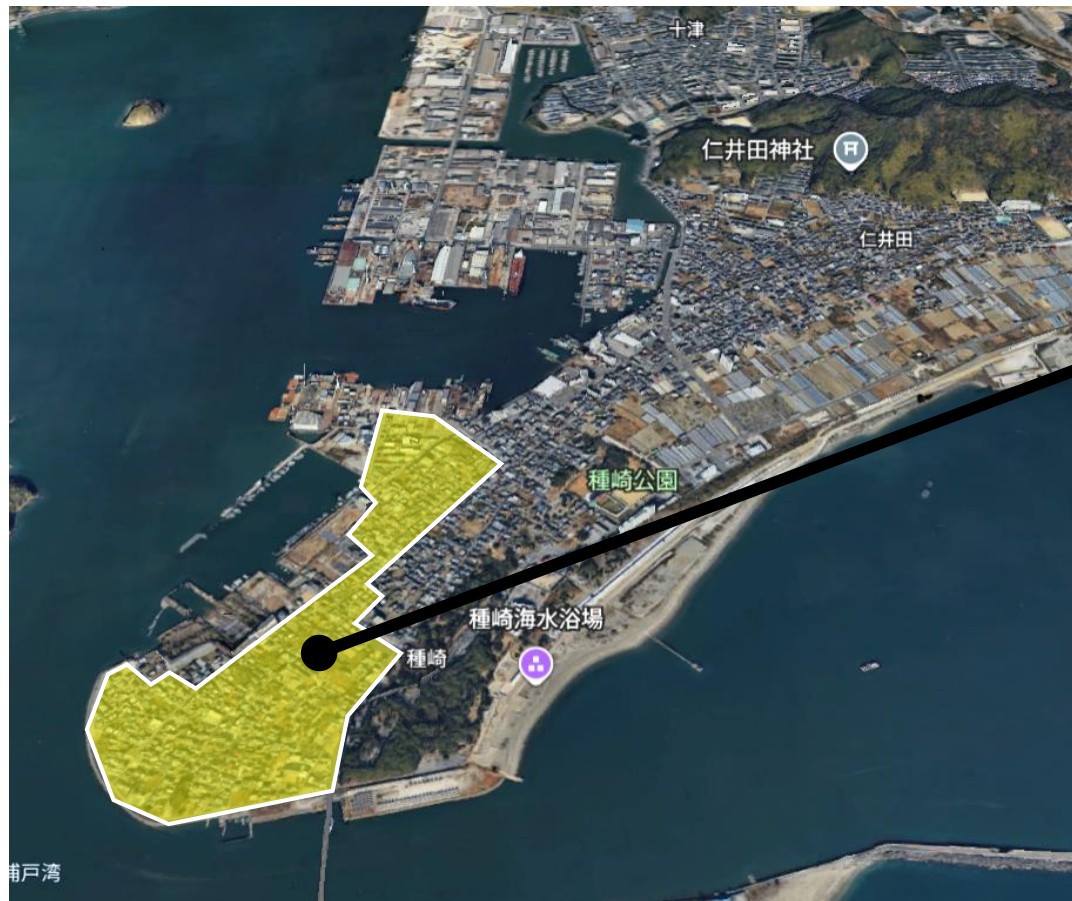
建物については、建物が全壊の場合は被災者生活再建支援制度等、建物が残存している場合は移転補償費等の活用されます。

修正パターン

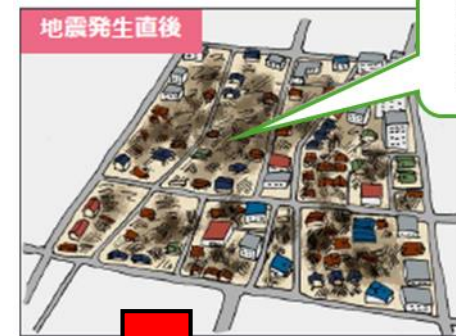
【1案】嵩上げ・区画整理事業

【整備効果】
津波安全性・居住環境・利便性等の向上させる

イメージ図



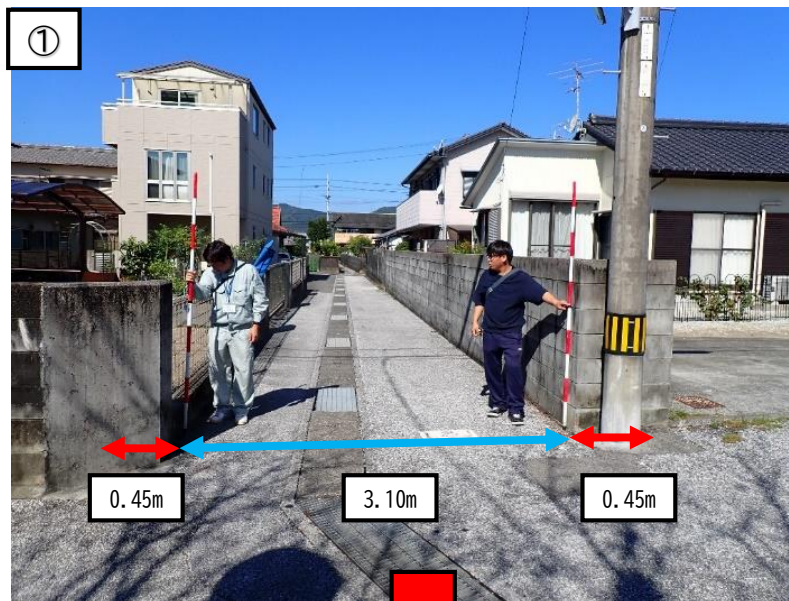
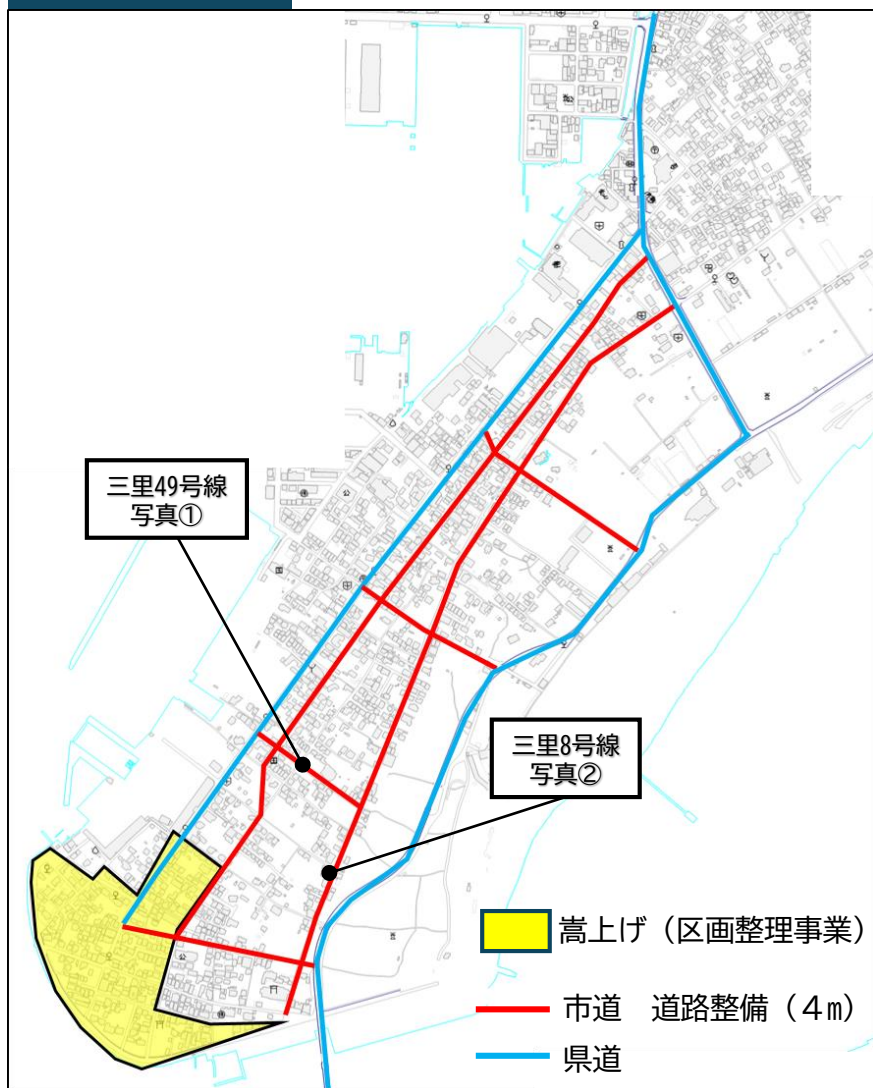
【嵩上げ・区画整理事業の流れ】



修正パターン

【1案】道路ネットワークの整備

イメージ図



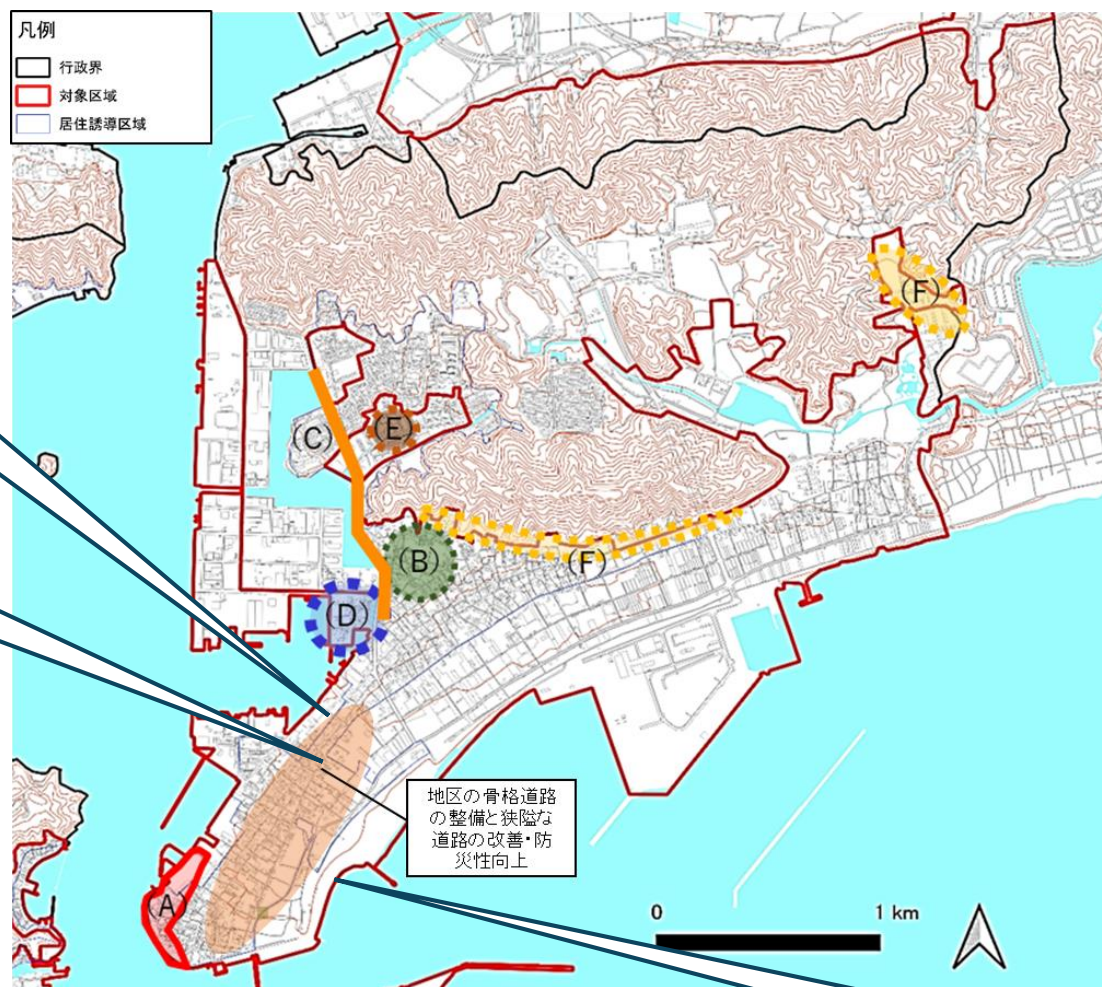
↔ 現況道路幅員
↔ 道路拡幅延長

【整備効果】

左地図の赤線路線は地区の主要道路であるため、現状幅員が4.00m未満の道路は4.00mへ拡幅し、居住環境・利便性等を向上させる。

さあ、みんなで話し合ってみよう！

意見交換：修正パターンについて、意見を共有しましょう。



前の案より良
くなった！

第3回へ意見反映

ワーク4

速やかに復興するために必要なことってな～に？

①住民ができること

例)

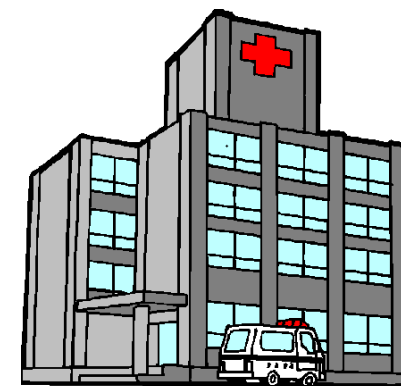
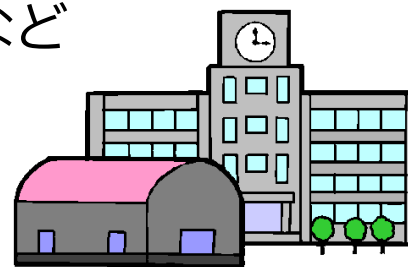
- ・ 自助・共助の意識向上
- ・ 再建の知識向上
- ・ 被害想定 of 把握
- ・ 復興計画の周知
- ・ 土地の相続登記



②行政にしてほしいこと

例)

- ・ 公共施設の復旧
(ふれあいセンターなど)
- ・ 観光地を優先して復興
- ・ 商業施設への復旧のための補助金など



まとめ ①

②

③

次回開催のご案内

第2回ワークショップへのご参加ありがとうございました。
次回もご参加をよろしくお願いいたします。

日時：令和8年3月頃

開催場所：未定

決定次第、案内を送付いたします。

実施内容（予定）

- ・ 第2回の振り返り
- ・ 意見交換：最終案（修正復興パターン）について
- ・ ワーク5：災害が起きる前からできることについて、
意見を共有しましょう。
- ・ まとめ

ワークショップのほか、ホームページ上に掲載した意見投稿プラットフォームでも意見を募集していますので、地域の方へのご周知のほどよろしくお願いいたします。

意見投稿プラットフォームはこちら

